

第5回 住用町内学校の在り方検討委員会 会議録

日 時	令和8年2月10日（火）14時00分～15時30分
場 所	住用公民館 2階ホール
出 席 者	○住用町内学校の在り方検討委員会委員12名出席（欠席：納（弘）、吉村、西） ○事務局7名 （住用事務所長，教育総務課長，学校教育課長，学校教育課補佐，住用地域教育課長，住用地域教育課係長，住用地域教育課主事）
会 議 内 容	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事（事務局説明） (1) 住用町内学校の在り方について（答申） (2) 住用町内学校の在り方について報告書（答申） 4 その他（次回日程等） 5 閉会

議事内容は以下のとおり

(議長)

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

これまで私たちは、「子どもファースト」という考え方を軸に、住用町内の学校のあり方について議論を重ねてまいりました。子どもたちにとってより良い教育環境とは何か、どのような学校形態が望ましいのか、地域との関わりをどう考えるのかといった点について、様々な角度から検討してきたところです。

全国的にも少子化が進み、学校のあり方が問われている状況にあります。その中で、住用町としてどのような方向性を示すべきか、大人として何を責任を持って決断すべきかが、今まさに問われていると感じております。

本日は、これまでの議論の集大成となる重要な会議となります。

どうか最後までご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、今回の議長につきましては、設置要項第5条により、委員長が会議の議長となることとされておりますので、ここからは原田委員長に議長をお願いいたします。

(議長)

それでは、本日の進め方についてご説明いたします。

まず、お手元の資料1の最後のページにございますスケジュールをご覧ください。本日が第5回目の検討委員会となります。前回は12月に開催いたしました。その後、各地区で住民説明会を実施していただいております。

本日はまず、その説明会の内容について報告を受けます。その後、確認事項があれば確認を行い、あわせて未定稿の答申書についてご意見をいただきたいと思います。

なお、この答申は2月16日に教育長へ提出する予定となっております。本日が実質的に最終の協議となりますので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いいたします。

それでは、1月に実施された住民説明会の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、事務局より説明いたします。

今年度これまで5回の検討委員会を開催していただきました。ありがとうございます。

本日は最後の検討委員会となりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは、1月27日、28日、30日に実施いたしました住民説明会の概要についてご報

告いたします。

資料 51 ページをお開きください。

まず、説明会で出された主な意見についてです。

(1) 学校の目標や教育環境についてのご意見

子どもたちにとってより良い教育環境を整備することの重要性について、多くのご意見をいただきました。

(2) 地域への影響について

学校統合に伴う地域活力の低下や、地域コミュニティへの影響を懸念する声がありました。

(3) 統合の時期や進め方について

具体的な時期や、どのような形で統合を進めていくのかという点についての質問がありました。

(4) 通学や経費の負担について

通学方法や通学時間、保護者負担等についてのご意見がございました。

なお、アンケートの実施についてのご意見もありました。説明の中で表現が不十分な部分がありましたが、今後の対応の中で必要に応じて検討するという趣旨で説明しております。

続いて 53 ページをご覧ください。

1月28日の説明会での主な意見です。

- ・学校形態（小中一貫校等）について
- ・教職員体制について
- ・学校施設の活用や防災拠点としての役割について

特に、防災拠点として学校が果たす役割についての意見が多く出されました。

また、統合後の施設活用についても質問がございました。

続いて 56 ページ、1月30日の説明会の内容です。

こちらでも、防災面での機能や、学校が地域にとって持つ意味についての意見が出されました。学校がなくなることへの不安や、地域の拠点が失われることへの懸念が示されております。

また、学校形態や通学方法についての具体的な質問もありました。

総じて、少人数教育の良さを評価する声と、将来的な教育環境の充実を求める声の両方があり、慎重な判断を求める意見が多かったと感じております。

以上が、3会場での説明会の概要報告でございます。

(議長)

それでは資料 51 ページをご覧ください。

現在の状況、そして今後の方向性について記載しております。

この点についてご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(委員)

集落説明会に出席しましたが、未就学児をお持ちの保護者の方から意見がありました。

現在は休校中ですが、ぜひ本校に入学させたいという強い希望を持っておられます。

一方で、小学校 1 年生から長期間通わせることについては、負担が大きいのではないかという懸念も示されました。

低学年の間の対応や、途中学年からの入学など、柔軟な考え方はできないでしょうか。

検討委員会ではどのように議論されていますか。

(事務局)

検討委員会でもその点は継続的に議論になっています。

低学年から通わせる場合の通学負担、保護者の意向など、さまざまなケースがあります。

まずは保護者の思いを丁寧に聞きながら、どのような対応が可能か検討していく必要があります。

(委員)

通学バスでの移動時間が長くなるのではないかと、という指摘もあります。

実際の通学時間はどの程度になるのでしょうか。

(事務局)

具体的な時間はルートによりますが、他地区では 20 分以上かかる事例もあります。

通学方法や運行体制については課題がありますので、事例を整理して今後提示していきたいと考えています。

(委員)

仮に児童が 1 名のみの場合でも、学校を再開するのでしょうか。

その判断基準はどのようになりますか。

(事務局)

まずはその点を協議する必要があります。

今後の児童数の見通しも含めて総合的に判断することになります。

保護者とも丁寧に話をしながら、すぐに結論を出すのではなく慎重に進めたいと考えています。

(議長)

学校を開校するには、施設整備や人的配置などの準備が必要です。

十分な調査と体制づくりが不可欠です。

(委員)

資料には「地域存続」という言葉が複数回出てきます。

学校の問題だけでなく、地域全体の将来について、どのように考えているのでしょうか

(事務局)

非常に重要な視点です。

行政はプロセスを丁寧に示し、住民の理解を得る必要があります。同時に、地域側も主体的に関わる姿勢が求められます。

行政と地域が協働し、地域創生の視点で前向きに取り組むことが重要だと考えています。

(議長)

今回の検討委員会で明らかになった課題に、しっかり向き合う必要があります。

計画を立てるだけでなく、実行していく覚悟が必要です。大人が責任を持って取り組むことが重要です。子どもたちにとって小学校・中学校の時間はかけがえのないものです。

引き続き丁寧に議論を重ねていきたいと思えます。

それでは、先に進みます。ありがとうございます。

資料 53 ページをご覧ください。

このページについて、皆様からご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

(委員)

先日、卒業生の一人が高校生になり、街で会いました。

話をしている中で、「初めて同じ学年の友達ができたと嬉しそうに話してくれました。

これまで少人数の中で、兄弟のような関係で育ってきましたが、

やはり同じ学年で同じ内容を学ぶ友達の存在は、子どもの人生にとって大変大切だと感じました。

現在、この地域には六つの集落がありますが、そのうち実際に子どもがいるのは四つで、

二つの地域は子どもがゼロという状況です。

しかし、運動会の際には、子どもがいない地域の方々もテントを張り、一緒に応援し、子どもを育てていこうという雰囲気があります。

学校は、子どもを育てる場であると同時に、地域とともに育てる場でもあると思っています。

子どもがゼロの地域であっても、「みんなで育てたい」という気持ちは高まりつつあると感じています。

私の意見を申し上げました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。

人数が少ないという課題はありますが、同学年の友達と学ぶことの意義について、貴重なご意見をいただきました。

子どもにとって何が望ましい教育環境なのか、引き続き検討していきたいと思います。

(委員)

今回の検討のプロセスが、十分に地域へ伝わっていなかったのではないかと感じています。他の地域ではどのような意見が出たのか、また、議事録はどのように公開されているのかという質問もありました。

情報を「見える化」していくことが、お互いの理解を深め、課題解決への第一歩になるのではないのでしょうか。

事務局として、どのように地域へ情報発信していくお考えでしょうか。

(事務局)

これまでも資料のスケジュール共有や会議の報告は行ってきましたが、十分に伝わってなかった部分があったかもしれません。

今後は、より分かりやすい形で情報発信を行っていきたいと考えています。

例えば、学校だよりのような形での周知や、ホームページへの掲載をより明確に行うなど、方法を検討してまいります。

本日の会議内容についても、どのような意見があったのかを整理し、皆様に伝えていきたいと思っています。

これまでのことを振り返るだけでなく、これからの方向性を共有していくことが重要だと考えています。

(委員)

ホームページには第3回、第4回の資料は掲載されていますが、第1回、第2回の内容が分かりにくい状況です。公開の会議である以上、すべての回の内容を確認できるようにするべきではないでしょうか。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。

掲載状況を確認し、必要な情報が閲覧できるよう整理していきます。

(議長)

それでは資料56ページに移ります。

この件について、ご質問・ご意見はありますか。

特にないようでしたら、本日の全体についてご意見があればお伺いします。

(委員)

同級生がいないという状況について、やはり考えさせられました。

一か所に集まって学んだ方が良いのではないかとも思います。

例えば、何か危ないことが起こったときに、すぐ迎えに行ける環境の方が安心ではないかという気持ちもあります。

(事務局)

今後、保護者の方々のご意見も含め、行政としても協力しながら考えていく必要があります。

(委員)

これまでのアンケート等では、「早く結論を出してほしい」という保護者の意見が多かったように感じます。

極端に言えば、「来年度から統合して皆で集まるべきだ」という意見もありました。

一方で、本日の住民説明会では、「慎重に進めるべき」「拙速に結論を出さないでほしい」という意見が多かったように感じます。

保護者の考えと、地域住民の考えとの間にギャップがあるように思いますが、今後どのように埋めていくお考えでしょうか。

(議長)

ご指摘のとおり、保護者の意見も大切ですし、地域住民の意見も大切です。

委員長として申し上げたのは、まず「子どもファースト」で考えるべきではないかということことです。

現在通わせている保護者、これから入学を控えている保護者、その思いをまず受け止める必要があります。

一方で、「地域をどう振興していくか」という課題を、すべて子どもに背負わせるのは重い話だと思っています。

地域振興は大人が責任を持って考えるべき課題です。

統合の問題と地域振興の問題は密接に関係しますが、整理して議論する必要があります。

説明を重ねながら、理解を深めていくことが重要だと考えています。学校の問題と地域振興の問題を切り離すのではなく、同時に取り組んでいくことが大切だと考えています。

(委員)

地域の将来を考えると非常に難しい問題だと感じています。

子どもにとって友達の存在は大切だと思います。

一方で、地域の人口構成を見ると 20 代、30 代が少なく、このままでは 5 年、10 年後にさらに厳しくなるのではないかと感じます。

学校を残したい気持ちもありますが、現実を考えると悩ましいです。

住宅の問題や、移住者をどう呼び込むかといった対策も必要ではないでしょうか。

(事務局)

現在、住用地区において新規住宅の建設計画はありませんが、定住促進住宅制度はございます。

需要があれば、登録や改修など、できる対応を検討していきたいと考えています。

市全体として移住促進の PR を行い、家族世帯の定着につなげていきたいと考えています。

特定の地区だけではなく、市全体で取り組んでいきます。

(事務局)

重要なのは、統合した後にどのような学校をつくるのかという点です。

単に集まるだけではなく、地域と連携した教育モデルを構築できないかと考えています。

例えば、防災教育や地域文化を活かした学習など、地域資源を活用した教育を展開することも可能ではないでしょうか。

9 年間を見通した教育課程の中で、発信力や地域とのつながりを育てるモデルを検討していきたいと思います。自然環境も豊かですし、地域には人材もいます。小中一貫した学びの

中で、特色ある教育を計画していきたいと考えています。

まだ具体案はこれからですが、夢を持って構想していきたいと思います。

(議長)

本日もいただいたご意見を踏まえ、今後の方針案を整理していきます。

大きく二つの基本的な考え方があります。

一つは、望ましい教育環境の整備。

もう一つは、地域との連携・振興をどう進めていくかという点です。

少しお時間をいただき、整理した上で改めてご意見を伺いたいと思います。

(委員)

すみません。質問で申し訳ないんですけども、今回、一年間検討して、この答申書が教育長に提出された後の動きはどのようになるのでしょうか。答申について、再度検討の機会があるのか。それとも、教育長、市長へ提出して、それで決定という形になるのか。その目的も教えてください。

(議長)

本委員会としては、これまでの検討結果をしっかりとまとめ、答申書として提出する立場です。まずはその内容を尊重していただき、この基本方針に沿って進めていただくこととなります。

ただし、進めていく中で準備委員会等が立ち上がることとなります。その中で具体化を図っていくという方向となります。私たちはこの方針を出し、それを受け取っていただき、委員会としての答申として扱っていただく、という理解でおります。

(事務局)

答申内容については、課題も含めて明記し、今後の検討材料として示していく形になります。委員会での議論内容を踏まえた上で進めていくこととなります。

(委員)

答申書(2)の表現がやや抽象的ですので、もう少し具体的に書いてはどうでしょうか。

統合に伴い生じる様々な負担軽減について、明確に記載することを提案します。また、既存施設の活用や地域創生との関連も触れるべきではないでしょうか。

(事務局)

児童生徒への影響や施設面の課題についても整理し、文章として修正を行います。皆様、よろしいでしょうか。

(異議なし)

(委員)

スクールバス等とあるがどのような通学配慮が行われるのか。

(事務局)

住民乗合や地域のタクシーなど、複数の選択肢があります。今後、具体的にどの方法を採用するか検討していきます。

(委員)

災害時の道路事情なども想定し、スクールバス等の対応を明記していただきたいです。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。安全確保の観点も含めて、体制整備についても記載を検討します。

(委員)

準備委員会の構成についてお伺いします。学校経営に関わる方が責任を持って準備できる体制にすべきではないでしょうか。人事や施設整備など具体的な課題もあるため、当局側も主体的に関わるべきだと思います。

(事務局)

準備委員会の設置については現在検討中です。教職員の参加も必要と考えております。現場の意見を反映できる体制を整えていきたいと考えています。

(委員)

バス通学では、小さい子どもが寝てしまったり、降車場所の誤りが起こることもあります。安全管理体制を十分に整えていただきたいです。

(事務局)

ご意見を踏まえ、安全面の配慮を徹底する方向で整理いたします。

(委員)

人口減少が進んでいます。このままでは地域がさらに衰退してしまいます。学校統合はやむを得ない部分もありますが、地域の自然や世界遺産といった資源を活用し、子どもたちや移住者を増やす取り組みも同時に進めるべきです。条件が悪くなれば人口は減ります。あらゆる手を考えて取り組んでいただきたい。

(委員)

統合の形態や時期が曖昧です。早期に決定しないと準備が進まないのではないのでしょうか。

(事務局)

現段階で具体的な時期を示すことは難しいですが、準備委員会で具体化していきます。

早くても来年度以降の話になります。議会等の議論も踏まえ、慎重に進めます。

8. 閉会

本日まで 5 回にわたり検討委員会を開催し、皆様には大変お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。今後は答申を踏まえ、準備委員会においてさらに具体化を図ってまいります。引き続きご協力をお願いいたします。

それでは、第 5 回事業庁内学校あり方検討委員会をこれにて終了いたします。本日はありがとうございました。